浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所
〒641-0045　和歌山市堀止西1ー10ー14
TEL.073-424-4860 FAX.073-424-3733
E-mail uraguchi@nnc.or.jp
http://www.nnc.or.jp/~uraguchi
平成18(2006)年10月　Vol.4

自らが範(手本)を示すべきだ！

県議定数3・3名削減に奔走!!

和歌山県議会議員 新生わかやま県議団幹事長 浦口こうてん

全国47都道府県で唯一 和歌山県議会だけが 定数現状維持！

平素はなにかと私の政治活動をお支え頂き、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、既にご存知のことと思いますが、昨年十月の国勢調査の結果をもとに、今年の二月議会より問題になっておりました県議会の定数削減について3月17日、結局自民党・共産党・県民クラブの賛成多数で、結局1人も削減しないということとなりました。

(県民署名運動を進める4つの理由No.1参照)

秋田県に次ぐ 全国第2位の 人口減少率 わずか5年で3万3,851人消える！

私が当選後ずっと訴え続けてきた「和歌山県の人口減少問題」について昨年の国勢調査の結果、全国で秋田県に次ぎ二番目(3.2%)しかも、この二県だけが前回平成十二年より3%以上減少)に減少率が高くなり、予想以上の早さで「人口減少」が進んでいることが明らかになったにもかかわらず、県議会がそのことを真正面からとらえようとしておりません。

そこで私たち「新生わかやま県議団」は、県民の直接請求である署名活動を行なうことに！

議員定数案「削減ゼロ」 17日に可決・成立へ

新生わかやまは対案

自民、共産、県民クラブの県議会3会派は16日、選挙区等検討委員会の結論通り、来年4月の改選で議員定数を法定上限46のままとする条例改正案を本会議に議員提案した。17日に賛成多数で可決・成立する見通し。新生わかやま県議団は「財政や県民負担が厳しい中、議員も削減すべきだ」と43の対案を提案した。

検討委員会で定数46に賛成した3会派の8議員が提案した。「既に内容が知れ渡っている」として提案説明は省略した。

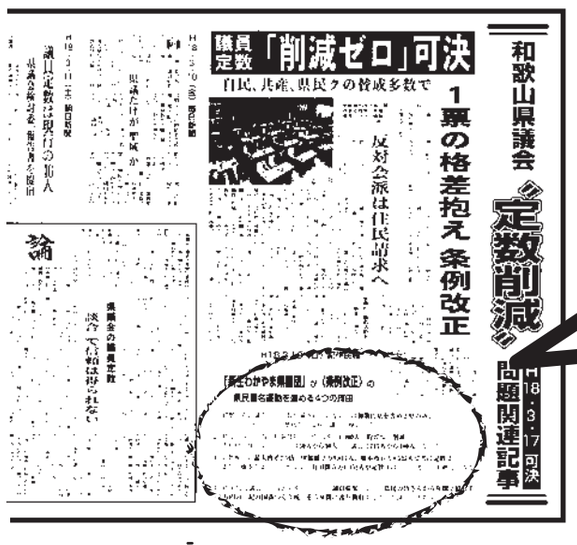
新生わかやまは所属5議員が提案。浦口高典議員＝和歌山市＝は、全国の都道府県議や県職員の削減率を挙げ「財源不足を理由に『紀の国森づくり税』を可決させ、県民の皆さんにも負担をかけている」と説明した。

公明党県議団は17日の本会議で、3会派案に対して反対討論をする。

▲(紀伊民報　H18・3・17)

◀定数削減のための条例改正署名運動で配布されたチラシ(表)

▼新聞記事も掲載(裏の一部)



「新生わかやま県議団」が〈条例改正〉の 県民署名運動を進める4つの理由

1. 47都道府県議会で、定数削減されていないのは**和歌山県を含め2県のみ。**(但し、もう一つの徳島県では6月議会で検討の方向)→**(H18. 9/1現在、和歌山県のみに)**
2. 県は、5年以内に知事部局の5,270人を、**1,400人(約27%)削減。**市町村合併により、首長は**50人から30人**に、議員は**745人から480人**になった。→**(H18. 9/1現在、議員は472人に)**
3. 定数配分の**最大格差2.3倍。伊都郡2万9,817人、橋本市6万8,525人で共に定数2。**また、橋本市より人口が少ない**有田郡5万1,452人が定数3**は、どう考えても納得できない。
4. 昨年12月議会で、自民党を中心にした**議員提案**により、**県民の皆さんから年間2億6千万円**の**「紀の国森づくり税」**を**5年間に渡り徴収**することを議会の多数決で決めた。

なぜ、和歌山県議会だけが…？
議員定数「46名維持」で可決
県民の声を無視！
皆様の声を直接 県議会に!!
新生わかやま県議団
意見広告
新生わかやま県議団は 43名に削減するよう 主張しました。
厳しい県財政状況の中、行政も民間と同じように痛みを分かち合うべく、議員は率先して身を削るべきと考えます！
各都道府県議会も定数削減 削減0は行政改革にも逆行
私たちは、県政の信頼を勝ち取るため、県民の皆さんと共に『定数削減』を求める署名運動を進めます
ご協力をよろしくお願い申し上げます
和歌山県議会 新生わかやま県議団
阪部 菊雄(橋本市)　原 日出夫(田辺市)
玉置 公良(西牟婁)　浦口 高典(和歌山市)
野見山 海(田辺市)
☎073(425)1137【直通】
URL http://www.shinseiwakayama.com
E-mail wakayama@shinseiwakayama.com
四大紙(朝日・読売・毎日・産経)並びにニュース和歌山・和歌山新報等に「新生わかやま県議団」が掲載した意見広告です

署名数、県下で3万674人 規定数1万7千313人を超える 和歌山市だけで1万4千528人も！

4月24日から2ヶ月の予定でスタートさせました署名活動でしたが、途中和歌山市選挙区における県議補欠選挙のため休止期間(6月14日から7月30日)があり、8月11日まで延長されました。その後、8月21日を締切りとして署名簿を回収し、各市町村の選管に提出しました。その結果、和歌山市1万4528人、橋本市900人、田辺市1万595人、由良町204人、白浜町3040人、上富田町1212人、すさみ町100人、串本町95人、合計3万674人となり、条例請求できる有権者数の50分の1の1万7千313人を超え、条件をクリアしました。これを各選管にて一般縦覧の後、木村知事に提出しました。

九月定例議会あと「臨時議会」開催へ

「紀の国森づくり税条例」の賛成議員、反対議員は次の通り。(順不同・敬称略)

《賛成》三十人

●自民党(二十六人)井出益弘▽宇治田栄蔵▽尾崎太郎▽小川武▽新島雄▽山下直也▽藤山将材▽浅井修一郎▽中村裕一▽大沢広太郎▽下川俊樹▽須川倍行▽向井嘉久蔵▽尾崎要二▽山田正彦▽飯田敬文▽門三佐博▽平越孝哉▽坂本登▽花田健吉▽富安民治▽町田亘▽前川勝久▽前芝雅嗣▽谷洋一▽小原泰(※吉井和視議長は除く)●県民クラブ(二人)和田正人▽松本貞次●県政21(一人)東幸司●無所属(一人)山下大輔

《反対》十四人

●新生わかやま(五人)玉置公良▽阪部菊雄▽原日出夫▽野見山海▽浦口高典●公明党(四人)新田和弘▽森正樹▽江上柳助▽角田秀樹●共産党(四人)村岡キミ子▽藤井健太郎▽雑賀光夫▽松坂英樹●県民クラブ(一人)長坂隆司

(紀州じゃーなる　H18・12・25)

全国初 県議会が県民に税金を！

(県民署名運動を進める4つの理由No.4参照)

県議会 森づくり税可決

施07年4月行 1人当たり年間500円

「紀の国森づくり税」などの修正条例案を賛成多数で可決した県議会(本会議場で)

県議会は15日の本会議で、議員提案された「森林保全の財源とする『紀の国森づくり税』」と「紀の国森づくり基金」の修正条例案を賛成多数で可決、12月定例議会を閉会した。同税条例は2006年4月に施行されることになった。

同条例施行により、県民は年間一人当たり500円、企業は法人県民税として標準課税額の5%相当額を徴収される。

本会議では、反対の立場から、新生わかやま県議団の浦口高典議員が「修正案は導入時期を一年間先延ばしにしたに過ぎず、県民の理解は得られない」と批判。共産党県議団の村岡キミ子議員も「県民の出で十分な議論が行われておらず、継続審議とすべきだ」と強調した。

これに対して、県民クラブの松本貞次議員は「森林を県民共通の財産と考え、広く薄い税負担で県民の参加を促す時期に来ている」とした賛成討論。結局、賛成多数で可決した。

同条例案は、自民党県議団などが提案、当初は06年4月から税を徴収するとしていたが、和歌山、御坊両市議会や連合和歌山などが一議論も足りず、やり方が拙速になどと反発。同県議団などは、施行を一年間先延ばしする修正案を出していた。

木村知事は「県民の理解と使途の明確化に努めることが重要だ」とコメントした。

これに対して、和歌山、御坊両市議会からは再度、反発の声が挙がった。和歌山市議の一人は「増税よりも、議会として、県に無駄を経費の削減を求める方が先だ」と指摘。「増税」御坊市議会議長も「せめて継続審議にとの思いも通じず、

(読売新聞　H17・12・16朝刊)

（H17・10・11～13）

文教委員会副委員長として海南高、資生館小（札幌市）世界遺産・知床半島に

県立海南高校で、理科の実験を視察

資生館小学校の校長らに、札幌中心市街地四校の統合の効果についてくわしく質問

知床岬を船上から見る小関県教育長と

（H18・3・28～29）

「新生わかやま県議団」青森市へ“コンパクトシティ構想”“ねぶた祭り”調査

「ねぶたの里」にて

「紀州よさこい祭り」の運営の参考に高知「よさこい祭り」、北海道「YOSAKOIソーラン祭り」に次いで、青森「ねぶた祭り」の行政の関わり方を調査し、NPO紀州お祭りプロジェクトに報告。また、今後の議会活動や地域おこしのための参考にしました。

青森市コンパクトシティの象徴的施設「アウガ」（青森駅前）の入口にて

（H18・1・11～13）

高速議員連盟で九州高速道路視察

県議会高速道路関係三議連（第二阪和・京奈和・紀南延長促進議連）の所属議員らと宮崎県の東九州自動車道を視察、現場責任者からレクチャーを受けました。

（H17・11・2～4）

県議会野球部員として全国大会へ

県議会議員の親睦をはかり、団結を強める野球部に所属（もちろん全部自費）。小学校時代の草野球以来なので、守備は「ベンチ」、補欠で1度も出番なし。しかしチームは優勝しました。

（H17・11・24～25）

関西空港特別委員会で全日空、日本航空、スカイマークなど航空会社の東京本社へ

東京―関空便が平成19年3月末で廃止になることについて、スカイマーク本社にて幹部社員に説明を求めました。

（H17・11・26）

NPO活動を応援中

橋本、伊都地方のNPOを関係者とともに（後列左から6人目、前列左から3人目は辻本高野口町長〈当時〉）

議員になる前から和歌山の市民活動に積極的に参加し、県内初の中間支援組織『わかやまNPOセンター』設立時の理事として現在もNPOを積極的応援。この日は県内で3番目に開設された「ネットワーキング紀北」の設立式に出席しました。（橋本市高野口町）

（H18・2・9）

李登輝前台湾総統と面談

「天下は公の為に」の中国建国の父といわれる孫文氏の肖像画の前の議長席で

台北市議会議員席にて先輩の坂本議員と

首都・台北市議会の玄関前にて「歓迎」を受ける

李氏の自宅に招かれ、応接間にて握手

和歌山県議会の日華親善議員連盟（会長・尾崎要二元議長）の一員として、2/8～2/10まで訪台しました。24年前に玉置和郎代議士の随行で、蔣経国総統当時の国慶節に訪台して以来2度目です。李前総統のお話を約1時間、間近にお聞きしましたが、その中で「現在の台湾の繁栄は、戦前の日本人から学んだ“日本精神”（「武士道」と「大和魂」）が基礎となっている。」とのお言葉に大変感激をしました。

（H17・4・11）

初のコーディネーターとしてスポーツを熱く語る

まったく畑違いの陸上競技ですが、マスターズ陸上の五輪実現をめざして、マラソンの宇佐美さんらを相手に軽妙なやり取りで会場を沸かせました。

マスターズ陸上の「生涯スポーツ」と自らが実践する「生涯武道」とをからめて会場の皆さんに語りかける

（わかやま新報 H17・4・12）

（H17・11・21）

近畿6府県議員交流フォーラムに

会場となった京都府議会議場にて

毎年秋に“近畿はひとつ”のスローガンのもと、6府県議会議員の勉強会に積極的に参加しています。

浦口こうてん議員活動ダイジェスト

平成17年4月～平成18年9月

（H17・5・22）

「ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟」共同代表に

全国誌の「早稲田パブリックマネジメント」（'05・秋号）他、「ガバナンス」（'05・7月号）「日経グローカル」（'05・9月・19号）等にL・M・地議連共同代表として登場しました。

（H17・11・13）地元和歌山でも、問題意識のある市民の皆さんに働きかけ、「ローカル・マニフェスト推進ネットワーク和歌山」を設立しました。

▲ 設立大会あとのパーティで木村知事と（後は、小田和歌山大学長）

東京・有明のビッグサイトにおいて地方議員約500名が結集し、ローカル・マニフェストの普及発展と議員マニフェストを掲げて選挙を戦うことを目的に「ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟（L・M・地議連）」が結成され、澤田さいたま市議（埼玉）、松野流山市議（千葉）とともに私が同議連の共同代表に選ばれました。

（H17・12・3）三重県の四日市大学で大学生や社会人にローカル・マニフェストについて語りました

パネルディスカッションにパネラーとして（右から3番目、私の右隣は北川前三重県知事）

（H17・3・17）

田子ノ浦親方と

和歌山県高校相撲界（私は耐久高校相撲部出身）の後輩（新宮高校卒業）でもある田子ノ浦親方（元久島海）と親しく談笑しました。

（H18・5・8）

和歌山経営道場にて講演

耐久高校の先輩で、弁護士の田辺善彦氏の主宰する勉強会で「和歌山県議会の今とこれから」という演題で約2時間講演しました。

（H18・8・19～20）

第3回 紀州よさこい祭り

平成13年2月より、和歌山の二人の若者（内田、土森君）と取り組んできた“和歌山の元気づくり”のための祭りが、和歌山を代表する祭りにまで育ってきました。

踊りの“元祖”和歌山MOVEメンバーと（肩に手を置いている相手は妻・孝子）

情熱あふれる「非日常」の踊り〈元気〉で、和歌山の「日常」の〈元気〉を呼び戻す

“地域づくりは人材づくりから”特技の日本拳法を通じて実践中

ニュース和歌山等で“塾生募集”中（H18・4・8）

「和歌山県セーフティ空手選手権大会」（御坊市）でも長女・佳菜が優勝（H18・4・17）

長年の研鑽が認められ日本拳法協会より七段が授与される（H18・3・20）

長女・佳菜が日本拳法協会で“史上初”の全日本九連覇達成

学生時代、主将として“青春の情熱”を燃やした早大拳法部50周年祝賀会に出席しました（東京プリンスホテル）。

祝辞を述べるのは河野衆議院議長（稲門体育会会長 競走部OB）

和歌山西警察署にて警察官に逮捕術の指導を他に陸上自衛隊員に徒手格闘の指導も行なう（H17・12・5）

久しぶりに再会した拳法部の先輩・後輩たちと（H17・11・12）

さわやか青少年育成道場
ニッケンスクール高典塾

その他主な活動

H17	4/2	ダイワロイネットホテル オープン・パーティ
	4/7	NPO法人「花いっぱい協議会」総会
	4/26	保護司会定例会
	4/30	ガーディアンエンジェルス アロチ・JR和歌山駅前パトロール
	5/8	ヒューマンアフター足立（和大）ゼミ
	5/25	バイオマス研究会
	5/29	ローカル・マニフェスト（L.M.）関西フォーラム（大阪）
	6/13～6/29	6月県議会定例会
	7/11	仙渓学園にてよさこい指導
	7/17	今福消防分団訓練
	8/12	L.M.共同代表者会議（東京）
	9/15～10/4	9月県議会定例会
	10/2	高田弘子主宰教育研究会
	10/3	市内中学校PTA幹部県教委へ
	10/4	森林環境税勉強会
	10/9	「万葉薪能」観賞
	10/16	鹿児島県人会総会
	10/22	早稲田大・慶応義塾大校友会和歌山支部合同懇親会
	10/28	近畿府県合同防災訓練
	10/30	雨山の郷（美里町）祭り
	11/1	NPO法人「子どもの命と健康を守る会」高野山バスツアー
	11/6	大和御宮秋季大祭
	11/10	第5回都道府県議会議員研究交流大会（東京）
	11/19	LM検証大会（東京）
	11/20	田辺市NPOセンター設立大会
	11/22	「翔の宴」
	11/27	全日本大学拳法選手権（大阪）
	11/29～12/15	12月県議会定例会
	12/1	生産性本部50周年大会
	12/4	合気道竹豊館忘年会
	12/6	東光グループ忘年会
	12/27～30	今福地区消防夜警
H18	1/26～27	マニフェスト・スクール初級編（東京）
	2/15～16	議会運営委員会 鹿児島県議会調査
	2/22～3/17	2月県議会定例会
	3/25	第7回自衛隊中部方面徒手格闘選手権大会（伊丹）
	3/26	橋本市長選出陣式
	4/20～21	マニフェスト・スクール実践編（東京）
	4/22	ローカル・マニフェスト地方議員連盟総会
	4/23	和歌山市消防団長研修会（代理参加）
	4/24～8/11	県議定数削減条例改正（46名→43名）署名活動期間（6/14～7/30県議補選のため休止）
	5/14	わかやまNPOセンター総会
	6/5	署名活動・橋本市議会議員へ説明会
	6/13～29	6月県議会定例会
	6/19	和歌山県美容技術選手権大会
	7/8	NPO講座「お金のつくり方」
	7/12～14	高速道路議員連盟視察（宮城・千葉）
	7/19	臨時議会（公明党議員定数2名削減）
	7/22	今福まつり（出店参加）
	8/13～14	初盆まいり
	8/21	県議定数3名削減署名等選管へ提出
	8/28	関西観光振興議員連盟発会総会（大阪）
	9/1	「森づくり税」説明会
	9/13～29	9月県議会定例会

（H18・8・1～9・30）

和歌山県議会で初めて議員インターンシップ

和歌山県議会入口前にて

学生の社会勉強と議員への理解を深める目的で、インターン生の大谷恵さんを受け入れました。大谷さんは由良町出身で耐久高校の後輩でもあり、立命館大学法学部二回生。事務所の事務仕事や随行として後援者のお宅に、いっしょに伺いました。

（H18・9・11）

親友の亀岡氏（福島1区）が衆議院議員初当選

後日、東京で開催された当選祝賀会で友人を代表してスピーチ

学生時代のクラスメイトで親友の亀岡偉民氏が、5回目の挑戦で喜びの初当選。特に前回無所属で出馬したときは、支援する地元の県議が一人もいなかったので、本人について約1週間応援演説に駆けまわりました。

（H18・3・20）

美容会館竣工パーティにて

父が現役時代から大変お世話になっている中谷理事長と

7年前に死去した父・高明が理事長をしていた和歌山県美容業環境衛生同業組合の新会館がJR和歌山駅東に完成。久しぶりに組合員の皆さんと親しく懇談しました。

若手の美容院経営者の皆さんと長いお付き合いだけにユーモアあふれる親しみのあるご挨拶を

“三度落ち…”と川柳で

過去の失敗（落選）の経験と和歌山の現状を、初めて川柳

平成17年2月定例会一般質問（3月7日）要旨

木村知事のマニフェストについて（●印は、浦口議員の質問（以下同じ））

●マニフェストにより和歌山県をどのような県にしようとしているのか（ビジョンについて）。

●七つの重点政策のうち何に一番力をいれ、知事が描く和歌山県の姿に近づけようとしているのか（プライオリティー（優先順位）について）。

木村県知事 和歌山を出来るだけ自立できるような形にしていかなければならない。例えば地場産業や観光産業の振興、そして自然を生かす中で人を呼び込んでいく方策を地道に行っていくことが大事である。

●重点政策を実現するために平成十七年度三十八億円を計上しているが、その捻出方法はどうか。

木村県知事 色々な無駄を行政改革によって見直すことにより財源を生み出し、それを新しいマニフェストを実行していくことに充てていきたい。

●重点政策の中で、産業の振興によって果たしてどれだけの新規産業が興り、そのことによりどれだけの税収増額が見込めるのか。

石橋商工労働部長 新産業の創出、販路拡大、さらに戦略的な企業誘致等に取り組んでいるところである。全体的な税収増額を算出することは困難だが、施策の展開により、税収の増加が図られるとともに、安定した自主財源の確保が促されるものと考えている。

●雇用の確保の推進の中で、Iターン、Uターンを含め、他府県へ進学している大学生、専門学校生の割合がどれだけ増えるか。

石橋商工労働部長 Uターンフェアの開催やジョブカフェの充実等により、様々な角度からUターン等の促進に取り組み、県では、四年間で約二千人の就職支援を目指している。今後はより一層若者の県内定住と県外からの就職を促進する。

平成17年9月定例会一般質問（9月26日）要旨

ローカルマニフェストの内容について

●ローカルマニフェストの中に、全体として低迷を続ける和歌山県経済を活性化させるカンフル剤、つまりビジネスチャンスは含まれているのか。

木村県知事 マニフェストでは、地域の活力を向上させる施策の柱として、「産業の振興と雇用の確保」と「都市との交流による地域活性化」を掲げ、地域経済の自立的な活性化と都市から地方へという流れを加速することにより、和歌山県地域の活力につなげていくとしている。

●人口十万人あたりの建設業者が全国一多い和歌山県で、これだけ公共事業が減少すると地域経済が冷え込んでいくのは当たり前であると思う。これにかわり得るものがあるのか。

宮地県土整備部長 この一月から各振興局建設部に「建設相談窓口」を設置し、進出相談、情報の提供等を行うとともに、講演会などを開催し、新分野進出の気運作りにに努めている。

また、十七年度新規事業として、アドバイザー派遣事業や新分野進出の戦略プランを策定するための費用を補助する事業を実施し、現在、環境・福祉・農業分野などで相談を受けている。

●県民生活について、このマニフェストの中で、何を信じ、何にかかわることにより日々の生活に希望を持ち、満足を得ることができるのか。

木村県知事 生活者の満足については、住民自らが主体的な取り組み、住民相互の協力、行政との協働の関係を構築することができれば、ふるさとに対する愛情、愛着が増すとともに、自己責任、自己選択による地域づくりに参加することにより住民の満足度もおのずから高まると考えられる。

“紀州よさこいバッヂ”を胸に、「支持者の皆さんの代弁者」として堂々と質問に立つ浦口議員

知事「最近おとなしい」

改革派の心境問われ

県議の質問に答え

7日開かれた県議会2月定例会の一般質問で、木村良樹知事が県議から「改革派」知事としての政治姿勢をただされ、「私もこのごろ、ちょっとおとなしくなった。どうしたら良いのか、という気持ちもある」などと微妙な心境を話す場面があった。

質問したのは新生わかやま県議団の浦口高典議員＝和歌山市選出＝。

浦口議員は、木村知事について「よく『最近ちょっとおとなしくなったんちがうか』『前は改革知事でようテレビ出てたけどな』という質問を受けた」と今年に入ってからの県民の声を紹介した。

答弁に立った木村知事は自身を振り返り、「色んな新しい事をやれば『はね返っている』と、やらなければ『おとなしくなった』と（言われる）。どうすれば良いのか、という気持ちもないではありませんけれど、頑張っていきたい」と神妙な面持ちで答えた。

浦口議員は質問の後「今は知事のリーダーシップが試される時だ。2期目になって、改革姿勢を緩めないようエールを送った」と話した。

（紀伊民報 H17・3・9）

浦口議員の質問に、誠心誠意答弁する木村知事（後は小川議長）

平成17年12月定例会（12月5日）「紀の国森づくり税」反対討論要旨

1、和歌山市議会、御坊市議会などからも反対の決議と慎重審議を求める意見が表明されているが、修正案は、単に導入時期を一年先延ばしにしたにすぎず今回の答案は到底県民の理解を得られるものではない。

2、また、つまるところ、先に税金の徴収ありきという姿勢である。

さらに、基金の使途は、知事が任命する同基金運営委員会にゆだねるなど、不明確である。

3、三つ目は、県議会そのものの見識にかかわる問題である。

本来、ここでいう議員条例は、全会派でもって議論し、全会派一致のもとに提出されるべきものであると我々は考えている。例えば、岩手県、三重県、鳥取県の各県議会の資料においては、議会内にきちっとした条例検討委員会等の機関を設置、徹底的な議論をし、最終的にほぼ全会派一致により議決されている。まして、税という十分に県民の理解と協力を得なければならない条例については全会派の一致をもって提出するべきではないのか。

平成18年2月定例会一般質問（3月6日）要旨

人口減少問題について

●和歌山県の人口減少率は全国二番目となっている。県は人口減少の先進県であるという認識はあるのか。また、人口減少に関しての沖縄県との違いについて。

木村県知事 人口減少というのは非常にゆゆしき問題であると考えている。

和歌山県の場合、非常に山がちであり平地が少なく、また国土軸から外れているなど沖縄とは違った意味で大変厳しい状況に置かれているが、そういうことにできるだけ抗していきたい。

●戦略的首都圏対策、近畿圏誘客対策、農業をやってみようプログラム推進に関しての具体的なマニフェスト、期限・財源・数値目標などについて。

下商工労働部長 首都圏については、六十歳前後の世代を中心に誘客を図り、カルチャーセンターと連携した取り組みの充実強化などを進めていき、近畿圏に対しては、関西私鉄各社とタイアップした誘客活動によるリピーター化の促進等を図っていく。

西岡農林水産部長 本年度では、鄙の里塾、鄙の夢農ともに、地域での円滑な就農を支援する鄙の里づくりを進めることにし、年間百五十人の新規就農者の確保を目指している。

●人口が減少して何が問題であるのか。①県民生活②産業③教育分野について。

楠本環境生活部長 ①地域コミュニティーの担い手が減少し、見守り機能の低下を招き、悪質商法や子供の安全が脅かされる問題が既に発生をしている。

下商工労働部長 ②消費全般での減退を招き、地域の依存度が高い商業やサービス業などの経済活動は厳しい状況に置かれるものと考えられる。

小関教育長 ③本県のように山間部を中心にして小規模校が多い県では適正な学校規模が維持できなくなり、特色ある充実した学校づくりが困難になる等の恐れがある。

●ますます人口減少に拍車がかからないか、またこのような社会が来ることを県民の皆さんにどう伝え、理解してもらうのか。

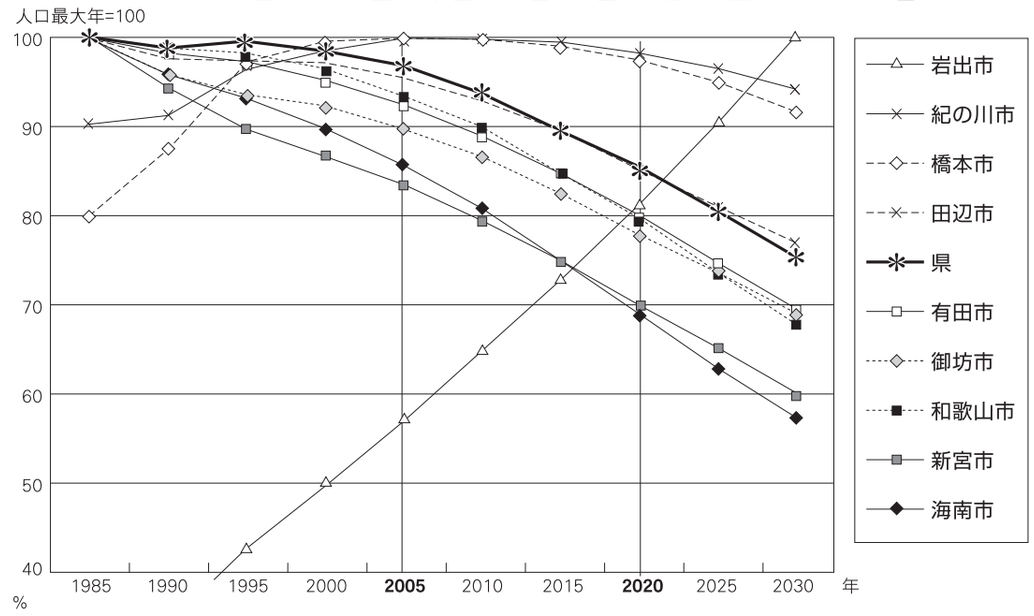
木村県知事 これは、ただ単に今回だけの減少ではなく、手をこまねいていれば当然十年先、二十年先にどうなるかということは火を見るより明らかな状況である。

高嶋企画部長 深刻な状況であるとの認識を県民の皆さんと共有することが大変重要であると考えている。

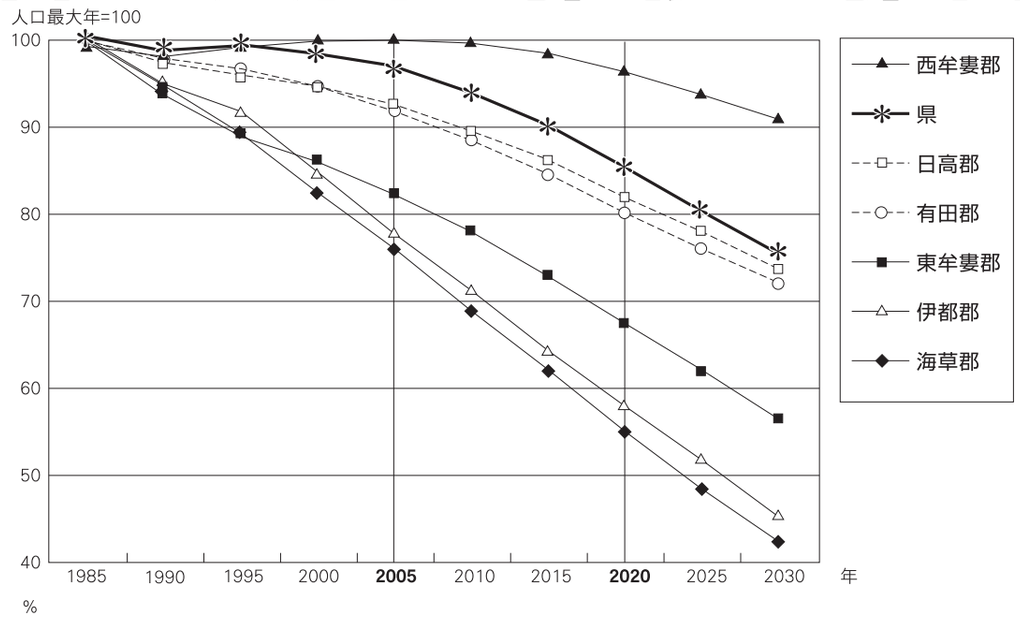
平成18年2月定例会 質問参考資料

和歌山県内9市6郡の人口の推移と推計

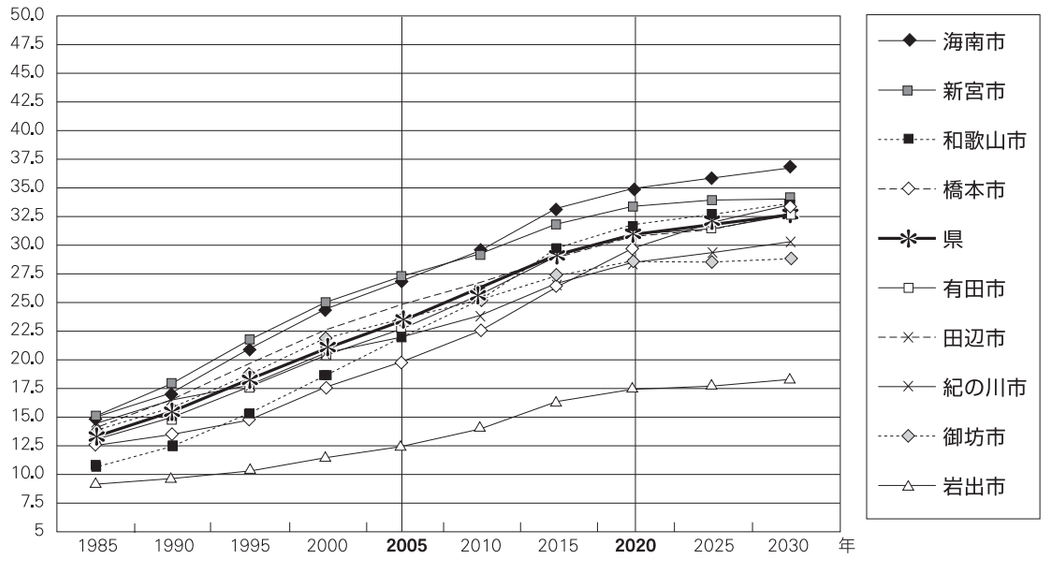
9市の人口の推移と推計



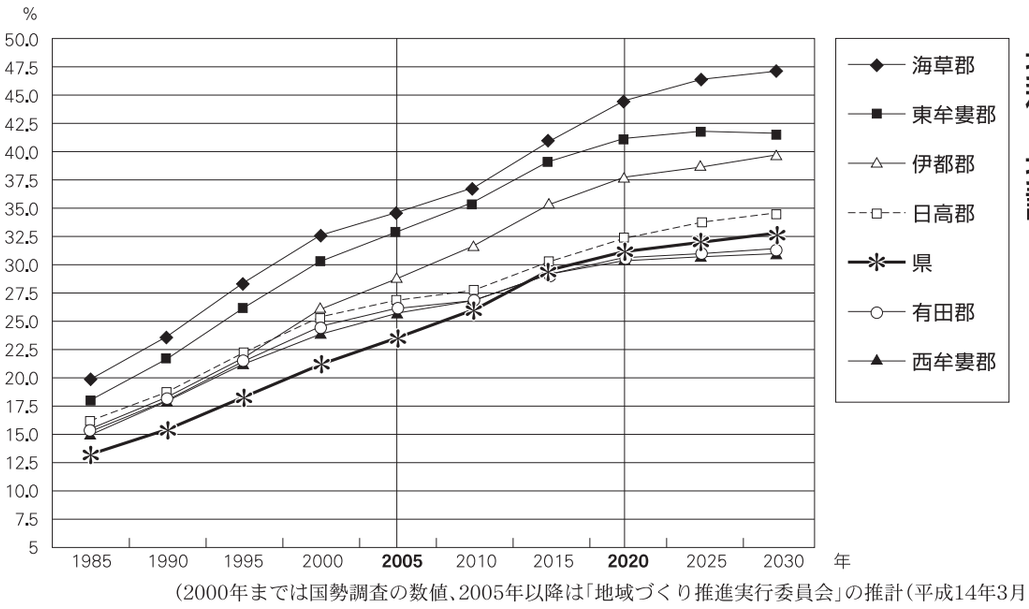
6郡の人口の推移と推計



9市の高齢者人口割合の推移と推計



6郡の高齢者人口割合の推移と推計



（2000年までは国勢調査の数値、2005年以降は「地域づくり推進実行委員会」の推計（平成14年3月））

責任編集・大谷　恵（インターン生）